

# 報 告 書

( 委 員 会 名 ) 議会運営委員会  
( 視 察 日 ) 令和7年8月19日 (火)  
( 視察先都市名 ) 愛知県岩倉市  
( 視 察 項 目 ) 委員会代表質問について  
議会サポーター制度について  
ふれあいトークについて

( 内 容 ) 報告者 大塚佳弘

## 1. 開会

- 1) 岩倉市議会 議長あいさつ 須藤智子議長  
2) 敦賀市議会 議会運営委員会 委員長あいさつ 馬淵清和委員長

### 【岩倉市議会出席者】

伊藤隆信 議員 (8期)、木村冬樹 議員 (6期)、鬼頭博和 議員 (3期)、片岡健一郎 議員 (2期)、塚崎海緒 議員 (1期)

## 2. 視察項目

### 1) 委員会代表質問について

岩倉市議会の「委員会代表質問」とは、各常任委員会が、その専門的な視点から所管する市の一般事務について行う質問制度のことで、当該質問は、各常任委員会において全会一致で意思統一を図った内容に基づき、委員会を代表する委員が行うものです。

**委員会代表質問は議会運営委員会でどのように議論され、制度化に至ったか (導入経緯)**

**委員会代表質問の位置づけは、議会基本条例等にどう反映されているか**

委員会代表質問の導入については、平成30年7月の議会基本条例推進協議会において、議会基本条例第21条第2項に「常任委員会を代表する議員は、所管事項に対し積極的に政策提案を行うため、委員会代表質問を行うことができる」とする規定を追加する案が示された。

この案に対する否定的意見はなく、制度として導入することが決定され、その年の12月定例会で初めて委員会代表質問が実施された。

### 他の質問形式と比較したときのメリット・デメリットについて

- メリット : ①委員会全体で議論した内容となるため、発言に重みが生まれる。  
②委員の多様な視点が反映されることで、質問内容がより深まる。  
デメリット : ①個人の意見ではなく、委員会の合意を優先する必要がある。  
②質問内容の作成には、委員会での協議に時間を要する。

### 市民や議員からの評価について

市民からの評価は把握できていないのが現状。一方、議員間では委員会代表質問について十分に意義のある取り組みと受け止めており、市政課題の解決に向けて必要な制度であると捉えられている。

### 委員会内での決定プロセス (質問事項の合意形成) について

テーマは、行政視察、議会サポーター制度、議会報告会及び市民との意見交換会などで得られた意見や情報から選定し、優先度や市民ニーズを検討したうえでテーマを決定する。テーマ決定後、必要に応じて担当課からヒアリングや資料請求を行い、質問者が主導して質問内容の案を作成する。その案を基に、委員会で表現や論点の調整を図るために複数回の打ち合わせを実施し、最終的に委員全員の合意を得て、委員会代表質問として正式決定する。

**委員会内での議論において、まとまらないケース（議員個人意見との齟齬が生じること）はないのか。対立意見等があった場合の取扱いについて伺う。**

現在のところ特に対立はないが、仮に委員全員の合意が得られず、意見の対立があった場合には、取り扱いを一般質問として対応することになる。

**委員会代表質問と同じ内容の質問を、一般質問で取り上げることはあるのか（可能なのか）。**

A 1：同じ内容を取り上げることはない。別の定例会の中で、個人の一般質問として行うことはできる。

**委員会代表質問を通じて、市政にどのような影響があったか**

委員会代表質問を行うことで、議員同士が意見を出し合い課題を深掘りしながら検討するため、質問内容はより具体的かつ実務的なものとなる。また、委員会代表質問で取り上げた事項は、その後の委員会審査や予算審議の場でも度々議論されることがあり、中長期的に政策へ反映される可能性が高まる。

実際に、委員会代表質問で0歳児・1歳児クラスの育休退園制度の廃止を求めた結果、保護者が育児休業を取得した場合でも全年齢の子どもが保育園を継続利用できるようになり、複数児童をもつ世帯への支援が前進したという事例がある。また、このほかに防災体制の見直しを取り上げた際には、市が翌年度から基金の拡充や備蓄倉庫の配置見直しを実施した。

これらはいずれも、議員個人による一般質問では単発の要望になりがちなテーマであるが、委員会代表質問をすることで、全庁的な政策改善に繋がるものと整理している。

**委員会代表質問を終えたのち、委員会としてどのようなフォローアップ（検証・再質問など）を行うのか。**

決算予算の中で、議員が個々に必要に応じて関連する質疑を行うことがある。

**運用上の課題や改善すべき点について**

委員会の任期は1年であることから、短期間で政策提言まで進めるための時間的な余裕が十分に確保できない。今後は、任期を2年にするなど、体制や運用の見直しを検討することが課題。

**質疑応答**

Q. 委員会代表質問は重み・深みが増す一方で、もし市役所側の意向が十分反映されなかった場合、予算審査などにおいて「委員会として一致して提出したものを市側が受け入れない」など、対立的局面が生じる可能性について懸念するが、現在、そのような事例はないか。

A. 現時点では、そのような状況は生じていない。

Q. 委員会代表質問は、議会日程において、一般質問と同日に行うのか。

A. 同日に実施している。

---

## 2) 議会サポーター制度について

岩倉市議会の議会サポーター制度は、戸田市や飯綱町の先進事例を研究して平成 30 年に導入され、「市議会を応援する立場」を示すためにサポーターと命名され、毎年 500 人に案内を送付する取り組みを通じて、市民の参加機会拡大と議会の認知度向上に寄与している制度である。

**議会サポーターから議員になった人はいるのか。**

サポーターから議員になった人は、これまでにいない。

**反対に、議員経験者が議会サポーターになる場合はあるのか。**

議員経験者が議会サポーターになった人も、これまでにいない。

制度を始めた当初から、ずっとサポーターを続けている方は 2 名おり、ほかにも 4～5 年続けている方もいる。

サポーターの中から議員が誕生することは理想であるが、いかに若い世代に関心を持ってもらうかが今後の課題である。

**無作為抽出及び公募の議会サポーターの割合について**

無作為抽出は、住民基本台帳から、18 歳以上 85 歳以下の市民を対象に、10～20 代、30 代、40 代、50 代、60 代、70 代以上の 6 つの年代区分に分け、無作為に 500 名を抽出している。

平成 30 年度は、無作為 9 人、公募 13 人、令和元年度は、無作為 11 人、公募 1 人、令和 2 年度はコロナ感染防止のため募集中止、令和 3 年度は、公募 1 人、令和 4 年度は、0 人の状況。

なお公募申し込みが少ないことから、令和 5 年度以降は無作為抽出のみで行っている。

**議会サポーターの報酬条件、年間の実活動日数（時間）について**

報酬は、年間でクオカード 3000 円分としている。

サポーターの実活動日数までは把握できていない。主な活動としては、本会議、常任委員会等を都合に合わせて傍聴をして気づいた点の意見提出、岩倉市議会だより及び市議会ホームページの掲載内容への意見提出、このほかサポーター個々の活動になっている。

**市民からの要望・提案・意見が、実際の議会運営に反映された事例について**

委員会での執行機関説明を 着座答弁方式に変更

サポーターが 説明資料を閲覧できる仕組みを整備

市議会ホームページに 子ども向けページを開設

本会議のライブ配信を YouTube で開始

五条川の桜に関する意見を受け、開花状況を映すライブカメラを設置し、YouTube で配信

**運用上の課題や改善すべき点はあるのか。**

「若い世代の参加をどう増やしていくか」、「専門的な知識や経験を持つ市民の方の参加をどう促すか」、「議会サポーター制度の認知度が足りていない」、「より政策的な意見を出してもらうこと」などが課題。

### 質疑応答

Q. サポーター選定において、公募をかけて希望する方になっていただく方が理想かと思うが、令和 5 年度から無作為抽出のみを実施している。公募をやめるまでに、議会として何か取り組んだ事はあるか。

A. 以前は、まず 500 人の無作為抽出を行い、引き受けてくれる市民の結果を受け、その後不足した場合に公募をかける運用をしていた。ただ公募をしても、1 人 2 人希望があるだけなので、無作為抽出のほうに一本化した。

Q. 年間報酬がクオカード 3000 円分とのことだが、この報酬に対してどのように評価しているか。

A. 年間報酬クオカード 3000 円分というのは議会からの提案で、妥当なものとして判断している。一部のサポーターからは、金銭では無く、専用のバッジを作成して欲しいという意見もある。

Q. サポーターの無作為抽出において、年代別は18歳～80歳で均等にされているのか。  
A. 年代によって人口比率にばらつきがあるため、それを考慮して、500通を発送しているが、特に、若者に比重を置くようにしている。今年度は18歳の高校生の参加もあった。若者からは、広報関係の提案（動画配信）を多くいただいている。

### 3) ふれあいトークについて

岩倉市議会の「ふれあいトーク」は、市民と議会が直接対話するために行われる「議会報告会」（年2回程度実施）と「意見交換会」（必要に応じ実施）を総称した取り組み  
テーマは幅広く、SDGs・まちづくり・五条川の活用・若者の参加などを取り上げており、外国人ママとの会・商工会女性部との会・若者向け会など、多様な対象で開催している

議員の役割分担をどのように行っているのか。

司会進行：1名、報告：若干名、文書記録：1名、撮影：1名、答弁：参加議員全員としている。  
会場設営も議員が担当。

ファシリテーターが要になってくると考えるが、進行マニュアルなどは整備されているのか。

ファシリテーターは、議員がその役割を努めている。  
進行マニュアルの整備はしていないが、議員同士がフォローして実施している。

意見交換会で議会サポーターの意見を伺っているが、それを住民の代表意見と捉えているのか。

議会サポーターの意見は、議会運営に関することに限定して受け止めている。そのため、住民の代表意見については、ふれあいトークを通じて伺っている。

議会サポーターとふれあいトークは、市民の声を議会に届ける手段、市民参加型の取組みという観点では共通しているポイントがあると思うが、どのようにすみ分けを行っているのか。

ふれあいトークは、議会が市民と直接意見交換を行う場であり、地域やテーマを定めて定期的開催することによって、市民の幅広い意見や課題を把握することを目的としている。一方、議会サポーター制度は、議会運営に関わる改善のため、市民から意見や提案を受ける仕組みとして位置づけられており、その意見は議会の運営方法や制度づくりに反映されるものである。

また、議会サポーターは議会との接点が多いため意見を出しやすい立場にあり、議会の内部的な改善点を把握する上で有効な役割を果たしている。これに対して、ふれあいトークは住民全体の声を広く受け止める場であることから、両者は互いに補完し合う関係にあり、両方の制度が総合的につながることで、市民参加と議会改革をより深める役割を担っている。

### 質疑応答

Q. 議会報告会は2月頃、おそらく予算説明前に実施している様であるが、その時点で市民に対して予算説明を行っているのか。

A. 以前はそうであったが、今年からは予算書が出てから実施するように見直しをしている。

### 3. 閉会

- |          |              |          |
|----------|--------------|----------|
| 1) 敦賀市議会 | 議会運営副委員長あいさつ | 大塚佳弘副委員長 |
| 2) 岩倉市議会 | 副議長あいさつ      | 谷平敬子副議長  |

### 委員所感

<馬淵>

「委員会代表質問」については、所管事務の調査において十分に調査・議論した内容について

て、本会議場で質問を行うということですが、確かに「行政への提言」を可視化する仕組みのひとつです。しかし、本市においては委員会等で議論し詳細に審査を実施されているのでそこまではと思います。「議会サポーター」については、議会の認知度高めるのにはいい取り組み、また「ふれあいトーク」については市議会と市民との交流活動ですが、本市は議会報告会を年ごとに工夫しながら取り組んでいるので現状でいいと思います。

<大塚>

岩倉市の視察項目で特に、「委員会代表質問」については注目していました。各委員会での代表質問に至るまでのプロセスについて、当事者の議員の皆様から、実際の事例を通しての説明を頂いた事は大変に参考になりました。しかし、実際に各委員会でテーマを決め、内容を吟味して質問に至るまでには高いハードルがある事を感じました。

<浅野>

「委員会代表質問」としては各常任委員会の本会議場での繰り返しのようになっているが必要性を考えさせられた。議員の所属していない常任委員会の重要な案件が各議員や全職員に分かることはよいことと思います。

「議会サポーター」については、議員の後継者育成にもなり、また、別途視察した新城市の「若者議会」との連携を図れば、地域を支え、良くしていこうとする住民を育てる為にも考えて行きたいと思う。

<大石>

委員会代表質問により質問に重みと深みが出たとプラスの評価をされていたが、説明を受けた事例は7月に検討を開始して質問に至ったのが3月議会となっており、スピード感が大きく損なわれていると感じる。その上、委員の考え方の違いを反映して最大公約数的な質問になってしまうと述べられる議員の方もおられ、調整に非常に労力を要することが推察された。

<山本武>

「委員会代表質問」に関しては、委員会として代表質問することで「重みと深みが出る」ことが主な導入趣旨であったが、果たしてそれだけで良いのか。敦賀市議会においては、代表質問、一般質問に区別なく、理事者は誠実かつ真摯に対応されていると感じており、「委員会代表質問」を導入する場合、屋上屋を重ねる議論になると思われる。また、委員全員の合意形成を図るが故、意見や思いの濃さが薄まることは否めないため、当議会に置き換えた場合の意味合いを深掘りする必要がある。

「議会サポーター制度」に関しては、客観的に議会に意見・提言いただくものとして有効と感じた。

<山本貴>

「委員会代表質問」は、委員会として代表質問することで「重みと深みが出る」とのことだが、考えが違う場合、最大公約数的な質問になるとのことで、無理にする必要はないと感じた。

だが、代表質問のために所管事務調査を重ねている、とのこと。委員会で積極的に調査をするなかで代表質問する必要が出るかもしれないし、議会の活性化にも繋がると感じ、あらかじめ制度化しておくべきと感じた。

<三田村>

委員会代表質問について、岩倉市のこれまでの質問の内容、姿勢などではあまり大きな意義を感じられなかった。しかし、たとえば市の大型プロジェクトを差し止めたい場合など、有効に機能する場面は確実に存在するものと思われる。しかしそういった機に直面してから検討したのでは当然間に合わないので、敦賀市としても「伝家の宝刀」として備えておく事には合理性があると思う。

<籠>

採用してみたがうまく機能していない議会の例を垣間見れた。委員会代表質問が議会としての制御として機能している議会を視察すべき。さらに「制御」されていると感じる自治体側の意見が聞けることができればなおのこと良し。